

高速道路の整備効果

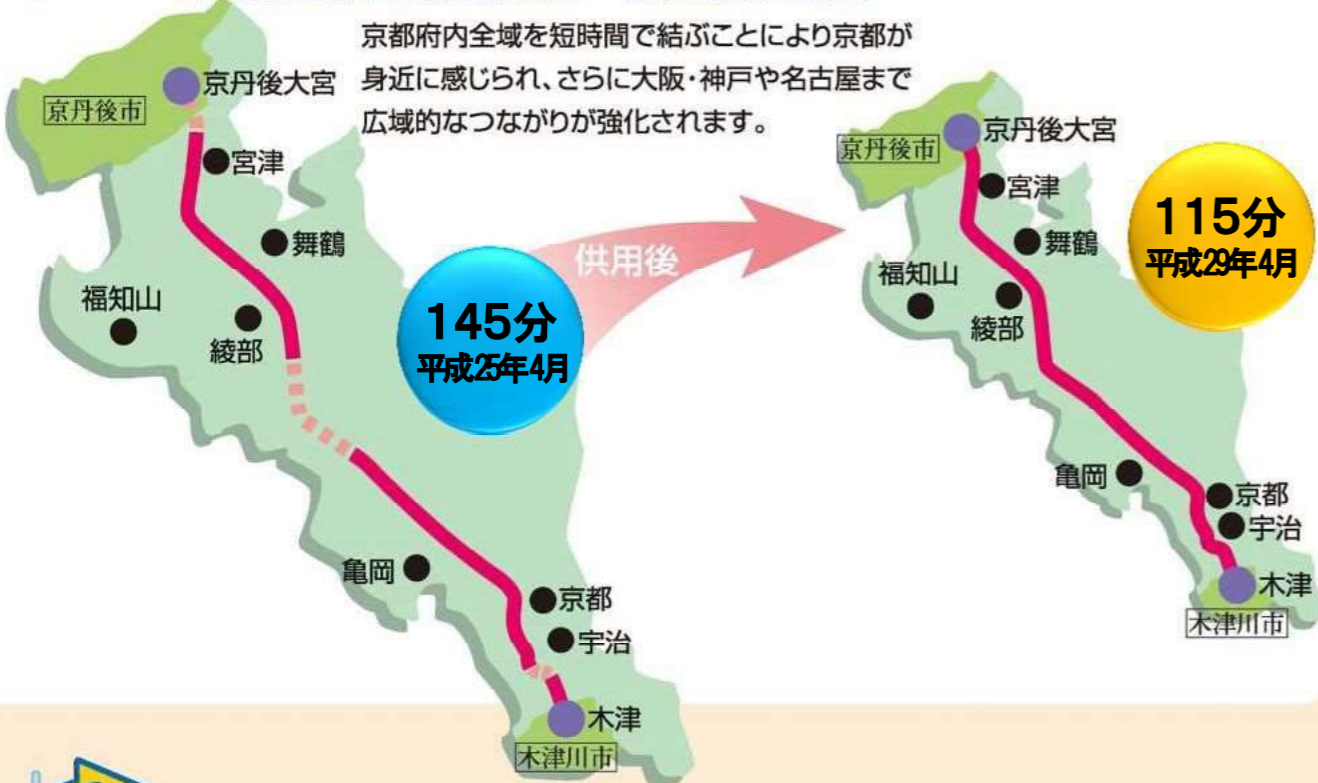
整備効果1

時間短縮

京都府南北間の移動が大幅に時間短縮

京都縦貫自動車道の全線開通、新名神高速道路（城陽～八幡京田辺）山陰近畿自動車道（京丹後大宮～与謝天橋立）の開通

京都府内全域を短時間で結ぶことにより京都が身近に感じられ、さらに大阪・神戸や名古屋まで広域的なつながりが強化されます。



115分
平成29年4月

145分
平成25年4月

整備効果2

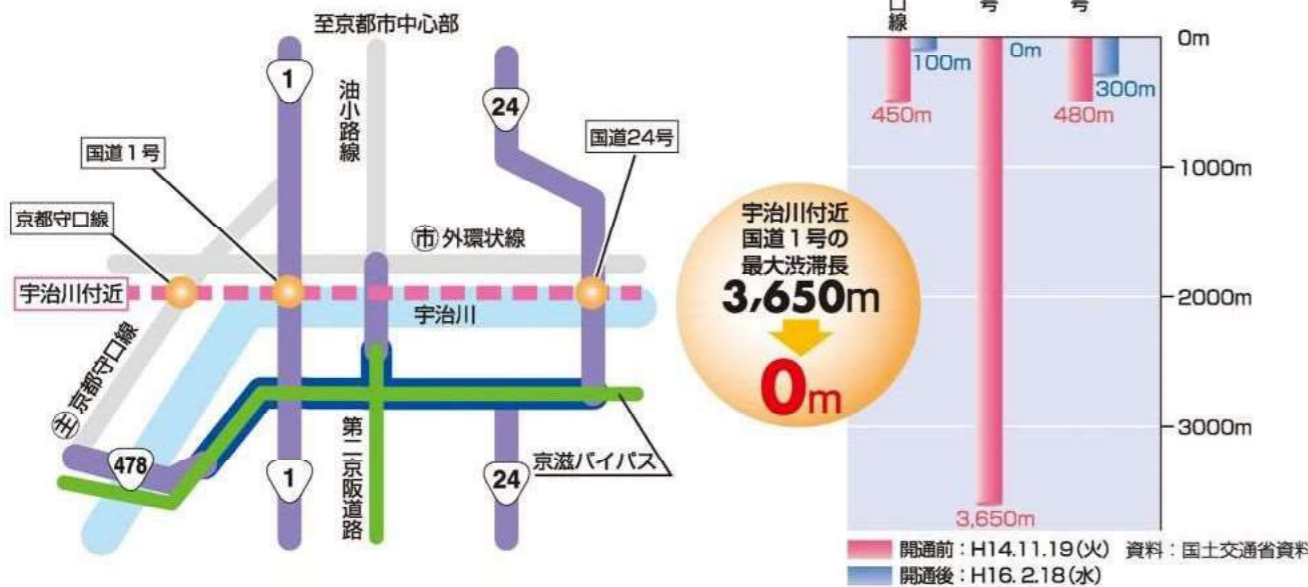
渋滞緩和

京都市南部の渋滞が緩和

第二京阪道路・京滋バイパス及び京都縦貫自動車道の開通

京都市南部において、これらの道路の開通により、京都市へ流入する交通が分散され、渋滞が緩和されました。

宇治川付近（市外環状線先頭）北向き渋滞状況の変化



宇治川付近
国道1号の
最大渋滞長
3,650m
↓
0m

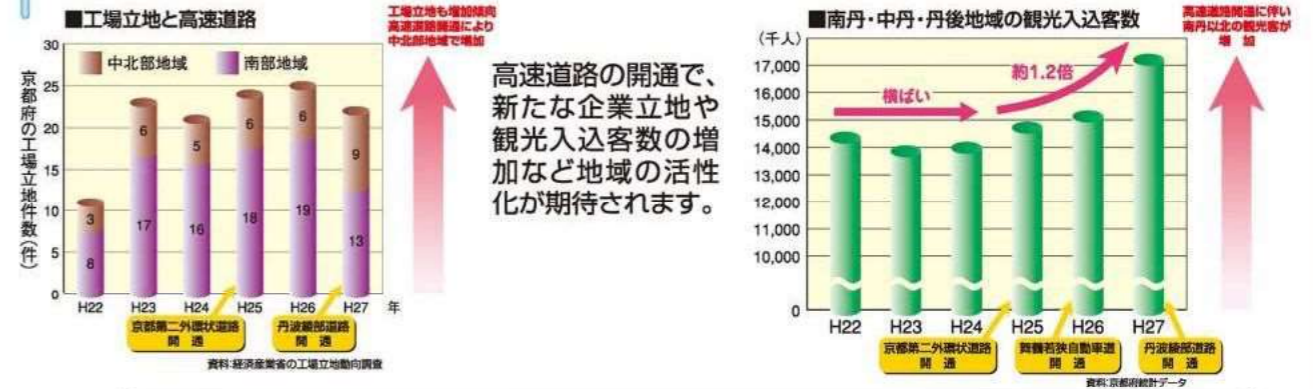
開通前：H14.11.19(火) 資料：国土交通省資料
開通後：H16.2.18(水)

整備効果3

地域振興

地域の活性化

工場立地の増加、観光圏の拡大



高速道路の開通で、新たな企業立地や観光入込客数の増加など地域の活性化が期待されます。

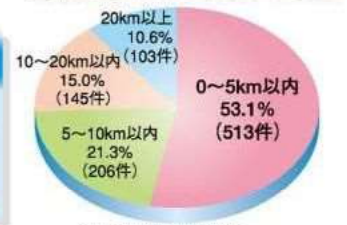
立地先選定の決め手と考える条件



企業の立地要因

- 企業進出の決め手は交通アクセスの容易さ
- 工場立地の約7割強が、高速道路ICから10km以内の立地

高速道路ICからの距離別立地件数



整備効果4

安心・安全の確保

災害時における信頼性が向上

緊急輸送や救急医療活動など、いざというときにも機能

高速道路がネットワークとして繋がることで、災害時の緊急輸送や緊急医療活動といった府民の安心・安全の確保に大きく貢献します。また、ネットワークの多重化により、代替機能が確保されることで、その信頼性は更に向上します。

